

審査前講評

私は、まず総合的な感想を言わせていただくと、皆さんよく調べられていて、それぞれの立場でそれぞれの考えというか問題点を提起し、それに基づいてある観点に基づき提案をされていて良かったと思います。特に驚いたのは、非常にロジカルに、このような問題は、こういうところから発生するというのをきちっと把握し、その問題を自分たちでどのような観点で整理したかということを書いて、そのあと独自の提案、いろいろなプランニングだとかネーミングをしたりして、分かりやすく皆さんに説明されていました。特に、分かりやすく伝えようと非常に努力されていたのがとても良かったと思います。

今回、1チームずつはお名前を挙げませんが、情報がたくさんあるので、いろいろなキーワードと制度を、今回の発表の中に盛り込んでいた点は良かったと思います。実際その企業に入って自分が社員になったとき、この立場になったときにこうして欲しいだろうなということ、よく考えられていたのは良かったと思います。

ですが、少し心配になったのは、経営者の立場もしくは女性だけのことを考えがちだったことです。職場の男性の立場というのを考えながら、コメントとか方針を出すところがちょっと足りなかったと感じました。

また、先ほどコストのお話がいろいろご指摘の中にあっただけですが、企業は持続的に経営をしていかなければならないので、やはり経営資源の選択と集中という問題があります。皆さんのご指摘していることが間違っているわけではないですし、いろいろな考え方があって、すべてやれたらきっといいかもしれません。ですが、何を最初に選択してやるべきかを決める時に、その中でどういう方策がすぐに成果が出るものか。もしくは時間がかかって成果が出るものか。それから、今いる人にとって良いのか、これからもう少し経ってから良くなる人がいるのかという、様々な観点から時間軸も含めて検討し、もう一度方策を考えられると良いのではないかと思います。以上です。

総合講評

皆様お疲れ様でした。ただ今、渥美先生からいろいろお話があったので、私も少しだけ個人的な経験をお話いたします。私は、長い間企業で働いていましたので、同じような問題を見てきました。先ほど渥美先生がご指摘されたように、敵は男性だけではないということです。

若い女性社員が、産休に入る方を良く思わず意地悪な対応をする。やはり自分たちに負担が掛かるからということで、色々な軋轢があり、辛い思いをしていた方を励ましていた

事を思い出しました。ですから今回いろいろ皆さんが考えた対応策の中で、もしかしたら女性の敵は女性であるという点も少し考慮し、また新しい提案をしていただければと思います。

私も長く勤務し、年を重ねることで社会人としての経験を積みながら、いろいろなものが見えるようになりました。それは、ワークライフバランスや男女の不平等な点等、いろいろなものが見えてきます。一つの企業という仕組みの中でどのように取り組んでいくのが良いのかというのは、今回のような機会がなかったため、私自身が不勉強だったために分からず、また困っていた後輩の人たちを手助けすることがなかなかできなかったのです。

今回、皆様はこのような機会を得られたことで、事前に勉強されてから社会人になりますので、私のような後悔はしなくて済むのではないかなと思います。

また、学生の立場といいながらも様々な提案がなされていて、審査員の皆様と、あの提案は良かったねと話すものもあり、関心いたしました。それから、オーディエンスの皆さんも、発表されている方の内容を真剣に聞き、メモを取られたり頷いたりしていて、本当に学び取ろうという姿勢が素晴らしい。高い所からでしたが、そんな様子を見ることができ、本当に今回のコンペティションは、私も含めて参加された方にとっても良い経験、得られたものがあつたと思います。

ここだけではなく、皆様が後輩の方にもお伝えいただいて、次回にはもっとたくさんの方が挑戦していただきたいと思います。

皆様、本当にお疲れ様でした。